

連載第3回 ようこそ!うちの子ども食堂

大津 しらゆり子ども食堂



開催場所 デイサービスしらゆりサロン
開催日 毎週火曜日 下校時刻～19:00まで
参加対象 平野学区 18歳未満
担当者 山元 浩美さん
連絡先 090-3166-6254

初開催からおかげさまで半年経ちました。子どもから元気をもらって楽しく取り組めています。今後も大人との関わりを増やして、子どもも大人も息を抜いて来られる場所にしていきたいです。

彦根 かめのこ 子ども食堂



開催場所 彦根市男女共同参画センターウィズ
開催日 毎月第3土曜日 11:00～14:00
参加対象 彦根市内(当面は平田・金城学区)の子どもたち、及び保護者
担当者 戸田 夏葉さん
連絡先 090-2061-5135(柴田)

来てくれた人たちが楽しく、のんびり過ごせる場所を作っていくとい思います。子どもたちはぜひ他の家庭で出される味付けや調理を知って、色々な美味しさを味わってほしいです。

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」

開設準備講座、始まりました!

これから子ども食堂を始めたいと考えておられる方を対象に、開設準備講座が始まりました。
「やってみたいけど、何から始めたらいだろ?」「始める前に疑問を解決したい!」
こんな思いを持っておられる皆さん、ぜひ、ご参加ください♪

第2弾は9月頃に甲賀圏域、第3弾は10月頃に湖北圏域で開催予定です!



野洲 ふたば・あすなろ食堂



開催場所 野洲市市民交流センター
開催日 毎月第1金曜日 17:30～
参加対象 野洲市北比江自治会 他の周辺自治会も含む。
ふたば・あすなろ学級の児童
担当者 松井 梨紗さん
連絡先 077-589-5000

大人も一緒になって、助け合える仲間づくりや人権学習を小さなころからの取り組みとして行っています。また、食事の前にはみんなで自主学習や集団遊びをしています。

長浜 ウィンナーサークル&「キッズ☆カフェ」



みんなで
にぎやかに食べる
ご飯はおいしいね♪

カラフルな食堂で、
気持ちも明るく
元気を充電!

みんなが主役!になれるよう、子どもたちの作りたいメニューや遊びを大切にしています。思いを言葉にし、形にする経験を積み重ね、参加者がみんな楽しい居場所になるように取り組んでいきます。

開催場所 長浜市民交流センター(他、市内公民館)
開催日 毎月第3日曜日を予定(時間は参加者と要相談)
参加対象 長浜市内(長浜小、神照小、南郷里小、長浜北小、北郷里小、長浜南小)の児童
担当者 中井 尚美さん
連絡先 090-3827-5684

[発行]滋賀の縁創造実践センター 第七号 発行日／平成二十八年七月二十八日
TEL:077-569-4650 FAX:077-567-5160 http://www.shigashakyo.jp/enishi

えにし通信

2016.7.28
Vol.7

誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され
「ありがとう」と看取られる地域づくりマガジン

滋賀の縁創造実践センター

湖南市の石部南学区まちづくり協議会が開催している
子ども食堂「にぎわい広場」に集まった皆さん。
(詳細はP8参照)

特集 はた 5 傍にいる人を楽にすることが、 次への一歩につながる。A P2-3



CONTENTS

*縁ひろがる!創造実践MAP P6-7
団体会員が21団体に! /事例検討多職種サロン/ハローわくわく仕事体験
入浴支援事業/フリースペース

*ようこそ!うちの子ども食堂 C P8-9
石部南学区まちづくり協議会「にぎわい広場」

*インフォメーション P10

*滋賀の縁創造実践センターの目標・会員名簿 P11

*連載第3回「ようこそ!うちの子ども食堂」B D E F P12

今回の「えにし」は
ここからお届け★



長浜市
高島市
彦根市
野洲市
湖南市

大津市



長浜市
高島市
彦根市
野洲市
湖南市

生きづらさをかかえる人の「働きたい」を応援 〈傍楽体験事業〉

はたらく
**傍にいる人を楽にすることが、
次への一歩につながる。**

制度の枠にとらわれない、 小さな働く場づくり

「働きたいけど、不安で一步を踏み出せない…」
障害福祉や生活困窮者自立支援、若者支援等の制度等で「働きたい」と思っている人への支援は整備がすんでいますが、一般就労までの距離のある人、一般就労をゴールとしない人等、働きづらさを抱えた人への柔軟な支援は現行の制度だけでは対応が難しい現状があります。

こうした現状を受けて「生きづらさを抱えている人の働く場づくり小委員会」では、だれもがその人らしく輝ける可能性を見つけられるかもしれないひとつのきっかけになる場として、小さな働く場づくりの企画検討を重ねてきました。

- ・「働くこと」を切り口に参加できる場所
- ・人や社会とのつながりを感じられる場所
- ・役割を感じられる場所
- ・少しでも働いた対価をもらえる場所
- ・自分の働き方を見つけるためにチャレンジできる場所

このような場を新たにつくるのではなく、事業所の中で「ちょっと手伝ってもらいたい」と仕事の切り出しをして、地域の相談支援機関と協力体制をつくり、「働きたい人」とのマッチングをしていくことを考えました。「働く」とは、「傍(はた)…近く)にいる人を楽(らく)にする」ということ。そんな気持ちで気軽に体験に足を運んでもらえたら嬉しいと、「傍楽体験」と名付けました。平成27年11月からモデル事業として始まり、この6月から3カ所目となる虹の会(高島市)の取り組みがスタートしたところです。

「傍楽体験」では、約2時間の体験を終えた後は相談支援機関の担当者や事業所職員とともに昼食をとりながらゆるやかな歓談のひとときを過ごし、少しだけ謝礼をお渡しています。このことが意欲はあっても交通費負担のため参加を見送っていた方が一步を踏み出す後押しとなっていると、相談支援機関より喜びの声をいただいている。体験を重ねるごとに参加者と職員、参加者同士の交流が生まれているほか、事業所にとって毎日の業務を手伝っていただいているのはもちろん、仕事への取り組み方を見直すきっかけにもなる等、さまざまな発見や変化のうまれる場となっています。

生きづらさをかかえる人の「働きたい」を応援

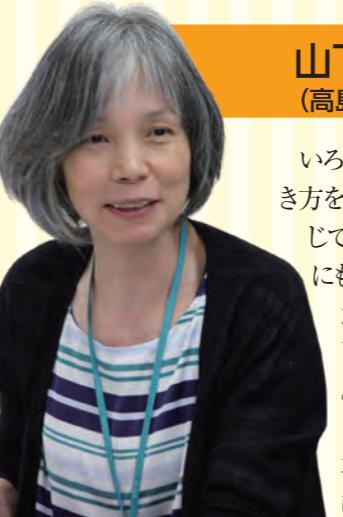
〈傍楽体験事業〉

Part I

モデル事業

「高島市で傍楽体験」が始まりました!!

6月下旬、高島市での傍楽体験が始まりました。(福)虹の会アイリス第2リネン工場に2名の参加のもと、フェイスタオルやバスマットを畳む作業を作業所の皆さんとともにすすめていただきました。膨大な量の作業でしたが、事業所も人手が増えたことで作業がいつもよりはかかる喜んでおられる様子でした。当日の様子を受けて、「働く場づくり」小委員会メンバーの山下晏叶子さんの思いを伺いました。



山下 晏叶子さん
(高島市障がい者生活相談センター・コンパスセンター長)

いろんな人との関わりや仕事・作業の経験により、役割を感じたり働き方を見つめなおしたりとご本人の内面の変化が生み出されると信じています。同時にこの「傍楽体験事業」では、事業所側の考え方にも訴えていけるものがあればと思っています。生きづらさを抱えた人達が事業所のある地域にもおられるということをまず認識し、その中で事業所の持つ多様な資源を活用しながらできるとして「傍楽体験事業」は大きな可能性があると思います。

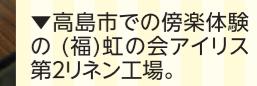
こうした前提の中でご本人の「役に立ちたい」「働きたい」と事業所の「助けてほしい」「手伝って欲しい」が地域でつながり、「縁」を広げて行ければいいですね。



▲作業所の皆さんと共に作業中!



◆体験者の皆さんからは、「自分のペースで仕事ができてよかったです」との感想が届きました。



▼高島市での傍楽体験の(福)虹の会アイリス第2リネン工場。

7月以降も実施予定

Part II

「傍楽体験」事業の気づきと広め方

(28年度第1回「生きづらさを抱えた人の働く場づくり」小委員会より▶平成28年6月16日(木))

働く場づくりから見たこと ～各地での実践を通して～

■6月、滋賀県社会就労事業振興センターにて

傍楽体験を実施!



▲城さん

振興センターでの傍楽体験では、人手も時間もかかる作業を助けていただき、また、とても丁寧な仕事をしていただいて、大変助かりました。自分のところで取り組んでみて、「もっとこうした場づくりができるのではないか」と改めて思いましたね。



▲松下さん

傍楽体験では、仕事をお願いするときにひとつひとつの作業について丁寧にわかりやすくお伝えする必要があります。人との関わりの中においてこうした姿勢が大事なのは、傍楽体験に限ったことではありません。傍楽体験を実施したことで、実施する側の職員の意識の変化も見られ、職場内での教育にもつながっています。

■地域若者サポートステーションとして利用者への

傍楽体験の周知・付添

県社協の「傍楽体験」を通して、就労につながった人もおられます。このように、体験を積み重ねることで次のステップに行



▲朽木さん

けるきっかけを得ることもあります。また、本人にとって体験メニューが合わない場合も当然あります。しかし、それもご本人の希望や課題、その方らしく輝ける道を見つける一助になると思っています。傍楽体験メニューが増えると、さまざまな方たちの可能性が広がりますね。

■東近江市社協において、制度にとらわれない 小さな働く場「S&S」(スマイル&スタンド)を展開



▲真弓さん

参加者自身から提案が出てくるなど、体験を積み重ねることで変化が生まれています。

また、就労が決まった人を見届けたら終わりではなく、いつでも帰ってくることができる場所にもなっています。ゆるやかながら、いずれその人らしく輝ける道が見つけられるかもしれない、可能性探しのひとつの場として気軽に来てもらえた嬉しいですね。

私たちが毎日行っている仕事の中にも、「誰かの可能性を拓く場」になりえるものがあるのではないか?こうした場が増えることで、本人も支援者も元気になりますね。



小委員会メンバー

城 貴志さん(NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター常務理事/小委員会リーダー)
松下 佑太さん(NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター コーディネーター)
眞弓 洋一さん(東近江市社会福祉協議会地域福祉課長)
山下 晏叶子さん(高島市障がい者生活相談センター・コンパスセンター長)
居川 勉さん(特別養護老人ホーム多賀清流の里 特養総括係長)
朽木 弘寿さん(滋賀県地域若者サポートステーション 総括コーディネーター)
橋本 隆也さん(滋賀県労働雇用政策課就業支援係参事)

今後の展開

「体験者の方とどのように関わったらいいのか」、「どのように声をかけたらいいのか」という受け入れ側の戸惑いも、支援者の方が付き添ってくださると参加者も私たちも安心です。



▲居川さん



▲橋本さん

このような体験を必要としておられる方は、県内にまだまだおられるのではないでしょうか?皆さんにできるだけ気軽に安心して参加していただけるように、発信の仕方も大切にしていきたいですね。

子どもたちの「生き抜く力」信じて、「幸せになりたい」という思いを実現したい

児童養護施設 小鳩の家 施設長
滋賀県児童福祉入所施設協議会 理事
滋賀の縁創造実践センター 理事
山本 朝美さん

児童養護施設に入所している子どもたちは、18歳になると施設を出て自立の道を歩み出さなければなりません。しかし、社会に出て自立しようとする中で、さまざまな困難に出会ってつまずき、行き場を失ってしまう子どもがいる、という現状があります。そこで縁センターでは、社会的養護にかかる子どもたちの職場体験事業「ハローーわくわく仕事体験」をスタートさせました。その成果やこれからについて、児童養護施設「小鳩の家」施設長の山本朝美さんにお聞きしました。

子どもたちの幸せに向かっていくエネルギーを大切に

谷口 山本さんは児童養護施設で子どもたちと接しておられますか、養育者として子どもたちをどう見ておられますか。

山本 小鳩の家は乳児院と児童養護施設の一貫養護を掲げ、0歳から18歳まで通して、子どもたちと一緒に歩んでいます。毎日様々なことが起こって養育者の思うようにならないことや、子どもたちのエネルギーに押されることもありますが、そんな中でいつも感じるのは、子どもたちには「生き抜く力」が備わっているということです。それが見えたときには本当にハッとさせられるし、子どもに教えられることが多いですね。子どもの言葉や行動の裏側にあるものをきちんと見つめられる養育者集団でありたいと思っています。

谷口 「生き抜く力」とは、具体的にはどんなものですか。日々の生活のどんなところで感じられますか。

山本 それは、人間が基本としてもっている「食べる」「寝る」「遊ぶ」という力をきちんと守りながら、前に向かっていく力です。社会的養護にかかる子どもたちは、安全な一般家庭の中で育つ子どもとは違って、自分の生い立ちについて、なぜ小鳩の家で育っているのかを理解しなければいけません。この告知をすると子どもたちはすごく苦しみますが、ここで守られているという実感があれば、必ずその苦しみを抜け出して、自分が描く「幸せ」に向かって前に進んでいくことができる。その幸せに向かっていくエネルギーこそ「生き抜く力」だと思っています。シンプルにいえば「幸せになりたい」ということです。

谷口 その力が出せるように、山本さんたちは伴走者とし

て寄り添っておられるのですね。

山本 そうですね。その中で、前に向かっていく力というエネルギーを子どもたちが持っていることに、逆に気づかされています。例えば、ある子どもが小学3年生のときにもらったメダカを施設で飼っているのですが、もらった子どもはもう中学生になり、メダカも延々と世代交代をしていました。それも、もうおしまいかな、と私は諦めていて、水槽を見ることもしませんでした。でも、ある子どもがメダカの赤ちゃんが生まれているのを見つけたんです。それにすごく喜んで、図鑑を持って熱心に観察している姿を見て、どうせダメだろと思っていた自分に気づかされました。このように、日々子どもがしている小さな発見を一緒に喜ぶことの積み重ねが子どもの「生き抜く力」を育て、また私たちもそんな子どもたちからエネルギーをもらっているんです。

“退所後”を見据えた自立支援から生まれた「ハローーわくわく仕事体験」

谷口 山本さんは滋賀県児童福祉入所施設協議会の理事も務めておられますか、施設としての連携はどのようにされているのですか。

山本 児童福祉入所施設協議会は児童養護施設、乳児院をはじめ情緒障害児短期治療施設、知的障害児施設、母子生活支援施設、自立支援施設、自立援助ホームの13か所に増えています。それぞれ支援する子どもさんは制度的には違いますが、一人ひとりの子どものためにどういう活動が必要か、何をすべきかを中心に据えてどの施設とも連携することができます。社会的養護にか

かる子どもたちを施設協議会全体で受け止めていきましょう、という形が出来てきたと思っています。また、里親連合会さん、ファミリー・ホームさんとも一緒に活動できるのが特徴ですが、それぞれが日々必死で、自分たちだけでは解決できない困難を抱えていました。

谷口 縁につながる活動は、そうした困難を共有し、一步前に進もうとされたことからスタートしたんですね。

山本 きっかけは、平成26年3月に小鳩の家を退所して自立した子どもが初めて出たことでした。これから自立をどう支援していくか、どことつながってゆけば良いのかわからないことがたくさんありました。そこに対して縁で何か出来るのではないか、という期待感はすごく大きかったです。

谷口 縁ができる前の話し合いは、その意味で、そこにいてくださった人と人、委員さんと委員さんのつながりが生み出したものだと思いますね。児童養護に理解のある委員さんや関心を持ってくださる人がいて「知らないかった、一緒にやろう」というところから始まりました。

子ども食堂も、自分たちの地域にしんどい子ども、貧困状態の子どもがいると知った人たちが、「放っておいてはいけない、大人として何とかしたい」と動いたことから広がりました。そこが、子どもの力だと思いますね。

企業の方々と接して子どもが自分に誇りを持つことが、大きな宝になる

谷口 縁の事業で「ハローーわくわく仕事体験」の取り組みがスタートましたが、何か変化や気づきはありましたか。

山本 この活動では、企業の方々から学んだことがすごく大きな宝になったと思っています。企業経営者の方が応援してくださり、熱い語りかけをしてくださったことで、これまで大変な思いをしていた施設関係者が、みんなで手をつないでいろんな方の応援がいただければ、子どもたちの自立を支えることができる、ということに気づくことができたのは、大きな成果でした。

また経営者から「働くことはお金を儲けることではない、社会の皆さんを幸せにすることです」と聞いたことで、子どもたちに働くことの意味がすごい力で伝わったと思います。子どもたちは「社長さんと知り合いになった!」と言っていますが、それが自分の誇りになっているようです。

谷口 「ハローーわくわく仕事体験」の受け入れ先のある企業の社長さんが、この活動を通して職場の中にもさまざまな境遇を抱えた人がいるということをお互いに分かれ合える雰囲気が生まれ、改めてお互いを大事にしないといけない、と気づいたと言っておられました。

山本 企業の中にも、自分も実はこうやって支えられてきた、という語りをしてくださる方がいると、分かり合える視点ができる、それが良い土台になりますね。そのような企業さんの応援はとても温かく心強いと思っています。だからこそ、それに甘えることなく子どもたちが社会のルールを守り、働く人として基本的な力をつけられるよう支える役割を果たしていかたいですね。

施設に入っている子どもたちは、近所の人の立ち話や、親同士の世間話などを耳にすることが多いので、外に出て職場の方が話していることを聞くだけでも、新しい視野が開けてきます。小学生は中高生にくらべてまだ「働く」ということを自分の将来のこととして捉える力は弱いかもしれません、それでも、溶接加工する会社を見学した子どもさんは、語れることがすごく増えるなど、いい形で発展しています。また、この仕事は自分に向いているかどうかの判断が出来るようになった子どももあり、とても大切なことを学べる場になっていると感じています。

自立後の居場所づくりとともに、相談支援のできる体制づくりを

谷口 これから先、どのような展開を描いておられますか。また何が課題になってくると思っておられますか。

山本 子どもたちが「ハローーわくわく仕事体験」で得た経験を通して何を学ぶか、そして、それが就労するとき、どのように生きるのか、というのがこれから楽しみになってきています。同時に、就労後にどう支えていかれるか、というのが大きな課題だと思っています。一つの事例でうまくいったから、これから誰でもうまくいって当然ではありません。自立しようとして倒れてしまったことも考え、どのように立ち直り支援をしていくか、という枠組みを作る必要があると思っています。小鳩の家においては気楽にいられる居場所(部屋)があって、いつでもおいでと言えます。しかし子どもたちが困難に陥ったときには、裏でいくつものことが重なってたりして、時には心を病んでしまうこともあります。ですから、私個人の考えとしては、気楽な居場所のほかに相談できる場所を作りたいですね。法テラスや行政・司法書士、社会福祉士会や市町の社協、様々な分野の専門家が知恵を出し合って、子どもたちの自立後の相談支援の場を滋賀県下につくることが大事だと思っています。

つまずいた子どもたちは決して一施設、一里親さんだけで支え切れるものではないので、立ち直り支援の体制を整えながら、応援しているよ、ということを子どもたちに伝えられるようにしていきたい。何より、子どもたちの「生き抜く力」を信じて、「幸せになりたい」という思いを実現できるよう、地道にでも、寄り添った支援をしていきたいですね。

谷口 そこでも縁でできたつながりを生かしながら、滋賀らしいことが出来そうですね。今後、縁の企画として投げかけていこうと思います。

ありがとうございました。

インタビュアー／谷口郁美
滋賀の縁創造実践センター所長



縁ひろがる! 創造実践マップ

滋賀の縁創造実践センター“えにし活動実践マップ” 2016.6.30時点

- 縁・共生の場
・遊べる・学べる淡海子ども食堂 ●26か所
- 課題解決のためのネットワーク
・滋賀の縁塾の開催 ●8か所
- 制度のはざまの解決に取り組むモデル事業
・フリースペース ●
- 要養護児童の自立支援 ■
- 入浴支援事業 ▲
- ひきこもりの人と家族支援 ◆
- はたらく体験 ★
- 縁結び・つながりづくり
・ふく・楽café ●
- 福こい♡縁結び♥

PICK UP



平成26年9月に発足した縁センターも、3年目に入りました。この間、だれもが「おめでとう」から「ありがとう」まで大事にされる福祉しがをつくろうと志と同じくする委員の皆様がつながりをつくり、ひろげ、地域や企業・事業所、関係者の皆様とともに制度のはざまを見過ごさない実践をひろげてきました。最新の動きをマップとともににお届けします!あたたかいまなざしと可能性を育む支援をさらに豊かにしていきましょう。

新加入!

縁の輪、ひろがっています(^ ^) ～団体会員が21団体に!～

レイカディアえにしの会・滋賀県救護施設協議会の2団体が新たに参画してくださいました。

レイカディアえにしの会は、レイカディア大学の皆さんのが地域活動のリーダーを養成しようとさまざまな取り組みをされている中で縁の活動を知り、有志による「えにしの会」として、今後一緒に活動をすすめていくこととなりました。救護施設協議会は県内3法人、5施設により構成され、生活困窮に苦しむ人々の生活支援をされている団体です。ま

た、個人会員についても新たなお申し込みをたくさんいただいております。(11ページの名簿をご参照ください)

3年目を迎え、ますますひろがり、深まる縁の輪。「気にはなっているけど、ときどき情報誌を見ているだけ…」という皆さん、今からでも遅くはありません。一緒に取り組みをすすめてみませんか?皆さんのご参画、お待ちしています!(会員規程・申込書類等はHPをご覧ください)

医療ケアを必要とする重度障害のある人の 入浴支援事業

～医療的ケアを要する重度障害のある人の入浴支援事業の今～

私たちは、どんなに障害が重くとも地域で暮らしていくける共生社会をめざしています。医療的ケアを要する重度障害児・者も、安心していきいと生活できる社会づくりです。縁のモデル事業として、入浴支援がスタートして一年半あまりが過ぎました。モデル事業を利用している人からは好評ですが、モデル事業終了後の生活不安を語られる人も少なくありません。また潜在的ニーズに比して、利用に繋がっている人は一部です。生活の介護は、自分たちが担わなければという責任感をご家族が背負っておられることがあります。このように、入浴支援を必要とされている人は少なくなく、この夏また新たな利用を調整中です。このモデル事業が制度の本流となるよう、課題である訪問看護・介護・訪問入浴の提供場所が拡大し、ひとりひとりの入浴の頻度が高まるることを期待しています。



連載★ モデル事業 REPORT

事例検討多職種サロン、始まりました!

～社会福祉士会との共働～

新企画

今年度より「一つの施策やサービスだけでは支援できない」という現場の気づきを、多職種・多分野連携によるトータルサポートにつなげていくための「事例検討多職種サロン」が会員施設を拠点にはじまりました。分野を超えて共に学びあい、圏域内のネットワークを広げるきっかけづくりや専門性を互いに知り合うことを目的として社会福祉士会によるコーディネートのもと、少人数のサロンを開催しています。「行きづまっているケースを一から検討したい」「地域の中の他施設と情報交換したい」「自由に学ぶ機会を持ちたい」など様々な動機から始めています。“事例”を

題材として、考える“場”を持つことで“気づき”を引き出すことが目的です。社会福祉士会がこのサロンの開催をコーディネートしています。

第1回は(福)光養会 特別養護老人ホームふじの里(高島市)において開催。今後も各圏域、各施設ならではのサロンを企画予定です。是非お気軽に、サロンをお役立てください!



少人数だから
話しやすい!

僕も私も行ってみたい!「ハローわくわく仕事体験」 ～みんなが「わくわく」小学生も行つきました～

要養護
児童の
自立支援

「この前は、いろいろありがとうございました。EXILE Eのステージの後ろのタワー、東京スカイツリーの作る時の足場やせん車のぶひんないろいろな物を作っていて、しかもくっつけたりするのは人の手作業でしているということにもおどろきました。」

社会的養護にかかる中高生を対象に開催してきた「ハローわくわく仕事体験」。実際に体験したお兄さん・お姉さんの体験談を聞いた小学生の子どもたちの「僕もわたしも!」という声に企業の皆さんごこたえてください、春休みに2名の小学生が見学や交流をさせていただきました。ある溶接工場の見学に行き、たくさんのことを発見し帰ってきたひとりの男の子が、企業宛に思いを込めて送った手紙を一部紹介します。



昨年度の縁センターから県への施策提案により、滋賀県からの委託事業として「児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり事業」となった「ハローわくわく仕事体験」。今年度に入り、登録企業も80か所を超えた。選択肢が広がったことで、子どもたちも職員も、さらに「わくわく」期待が高まっています。

何かあったらここにおいて★ 子どもの居場所“フリースペース”

施設職員みんなで見守る「フリースペースアイリス」



▲紙飛行機を投げています!室内でも思い切り楽しめるよう、いつも工夫して遊んでいます♪

「フリースペースアイリス」は、社会福祉法人近江舞子しようぶ苑を拠点として平成28年2月からスタートしました。これまでに施設の広さを活かしたさまざまな遊びや手作りケーキのデコレーションを楽しんだ誕生日会等を開催し、子どもたちも少しずつ慣れてきた様子です。フリースペースアイリスでは、子どもと関わるワーカーだけでなく、施設に勤務する職員も顔を出したり、多くの大人の見守りのもとで運営され、あいさつかができるようになってきたなどちょっとした子どもの成長が、関わる大人たちの喜びとなっています。

■フリースペースアイリス 平成28年2月スタート
毎週木曜 17:00~20:00 小学生2名が参加

ようこそ! うちの 子ども食堂



石部南学区まちづくり協議会(湖南市) にぎわい広場

現在、県内26か所に広がる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」。“ごはん”を通じて子どもを大事にする垣根のない居場所づくりが進んでいます。あたたかな食堂を開催されている皆さん、どのようにしてこの食堂をすすめられているのでしょうか。今号の表紙にも登場してくださった「にぎわい広場」の皆さんに伺いました!

みんなの「おいしい」が一番うれしい。
必要なものや喜んでもらえる形を
模索しながら進めています。

月1回1食でも助かる!と思ってもらえる、誰でも来られる食堂に!

私たちは、これまで石部南学区まちづくり協議会として、それぞれの部会で活動を続けてきました。昨年子ども食堂の話を聞いて「一日3食ご飯が食べられない子がいる」と知り、とても驚きました。でも、身近にそうした現実を抱えている子どもがいるかもしれないなら、自分たちにも何かできるんじゃないかなと思いました。皆で話し合ったところ、「やるからには続けないといけない。月1回、1食でも助かる!と思ってもらえたなら嬉しい。毎回凝ったごちそうはできないけど、カレーならできるね」と、この食堂を開くことを決めたんです。

必要なものや喜んでもらえるものを模索しながら進めています。

誰でも来られる食堂として1月からスタートして、毎回約80名の皆さんが来てくださいます。この半年、やってみてわかることがたくさんありました。たとえば、「子どものカレーといえば甘口!」と思い込んで甘口カレーを出していたんですが、どうやら子どもたちの好みは違ったようで(笑)中辛に変えた途端、「おいしい!」と好評になりました。やっぱり「おいしい!」って喜んでもらえることが一番うれしいですね。大人の方から参加費を頂くようにしたことで福神漬けもつけられるようになり、必要なものや喜んでもらえる形を模索しながら進めています。子どもの素直な気持ちに、私たちがいろ



▲こども食堂でのカレーライスとチケット



こども食堂での食事は
毎回カレーライスですが、
みんなで食べるカレーは
一味ちがいます!

いろいろ教えてもらう毎日です。3月からは食事の前後に紙芝居や絵手紙、ドッジボール等のイベントも実施していますが、子どもたちも思った以上に喜んでくれています。

多くの大人の参加で、見守りプラスコミュニティの場に!

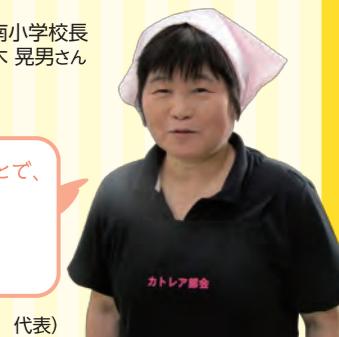
石部南小学校の先生も毎回顔を出してくださることも、子どもたちが安心して参加できる理由のひとつではないでしょうか。アレルギーの確認にも「日頃の給食どうしてる?」とその場で確認にご協力いただけています。こんな環境に恵まれていることは、幸せだなと思います。

また、毎回の参加者の約半分は大人です。小さなお子さんを連れたお父さんや一人暮らしの高齢者の皆さんもぶらっと来て、「みんなでぎやかに食べるとおいしいわ~」と喜んでいたりです。地域でおしゃべりのきっかけになるほか、区長さんや民生委員さんも顔を出してくださり、地域の見守りにもつながっています。ちょっと地域の端っこにあるため遠くて来にくい人もいるかと思いますが、1人でも多くの人に来てもらえた嬉しさですね。



学校の外、地域に
こんな食堂があるのはいいですね。
卒業した子どもに会うこともあり、
私にとって嬉しい居場所です。

石部南小学校長
佐々木 晃男さん



子ども食堂で結んでもらえたことで、
今まで知らない人とも
日頃の挨拶ができるようになりました!

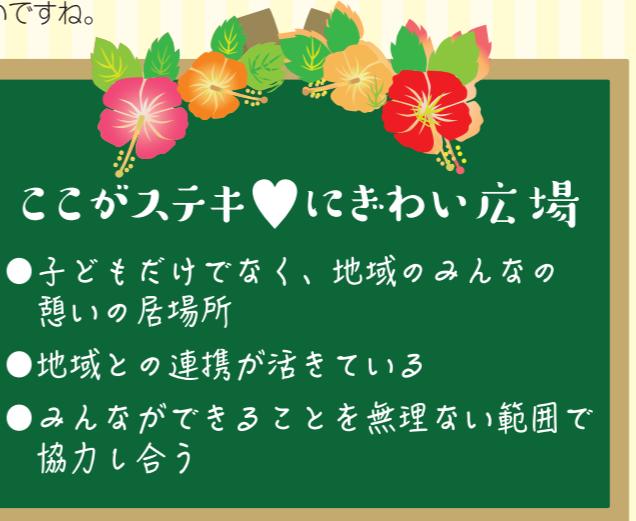
山元照代さん(にぎわい広場 代表)



▲会場の前にある広場でのびのびと遊ぶ子ども達



▲平均年齢70歳!
湖南市の中でも抜群に
元気あふれるスタッフの皆さん



- 子どもだけでなく、地域のみんなの憩いの居場所
- 地域との連携が活きている
- みんなができることを無理ない範囲で協力し合う

開催日 每月最終土曜日 11:30~13:00
参加費 大人 200円／子ども 無料
場所 石部南まちづくりセンター
(湖南市石部南3-5-1)
連絡先 0748-77-2535
(石部南学区まちづくり協議会)

Information

滋賀の縁創造実践センター 平成27年度 決算報告

平成27年度の決算について、平成28年4月28日に開催しました平成28年度総会において下記のとおり承認されましたのでご報告させていただきます。

項目	収入	支出
基金から繰入れ	37,000,000	
県補助金	3,000,000	
雑収入	189,200	
運営費	6,820,578	
嘱託職員人件費	3,483,802	
職員派遣補助金	3,000,000	
役員会開催費	176,396	
総会等開催費	160,380	
事業費	26,538,695	
淡海子ども食堂推進費	3,563,600	
「縁」認証事業費	1,377,324	
課題別事業実施費(居場所づくり)	2,538,061	
課題別事業実施費(要養護児童自立支援)	1,470,733	
課題別事業実施費(ひきこもり等の支援)	6,128,620	
課題別事業実施費(働く場づくり)	174,029	
課題別事業実施費(制度横だし)	1,048,440	
課題別事業実施費(認知症の人のケア)	0	
ひとり親家庭の子育てに関する調査事業費	985,732	
課題解決のためのネットワークづくり事業費	2,060,510	
縁結び・つながりづくり事業費	448,758	
広報啓発費	3,194,121	
企画会議開催費	444,680	
職員旅費	598,350	
事務費(共通経費)	2,505,737	
合計	40,189,200	33,359,273

※6,829,927円を基金に戻入。

※平成27年度事業報告・平成28年度事業計画等詳細については、縁センターHPに記載しております。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

補償金額（保険金額）

保険金の種類	プラン	
	Aプラン	Bプラン
死亡保険金	1,200万円	1,800万円
後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
入院保険金日額	6,500円	10,000円
手術	入院中の手術	65,000円
保険金	外来の手術	32,500円
通院保険金日額	4,000円	6,000円
特定感染症の補償	上記後遺障害・入院・通院の各保険金額(保険金額)に同じ	
葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	

ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課
保険会社 TEL: 03(3593)6824
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、12/31~1/3 を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3 を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒に締結する団体契約です。

(SJKN15-17042 2016.02.18 作成)

縁センターの取り組みが 『日本地域福祉学会 地域福祉優秀実践賞』を 受賞しました!

6月11日(土)、縁センターの取り組みが『日本地域福祉学会地域福祉優秀実践賞』を受賞しました。この賞は、全国各地でおこなわれている地域福祉に関する優れた実践を掘り起こし、ひいては我が国の地域福祉の一層の発展と向上に寄与することを目的として、2004年度より地域福祉に関する優れた実践を顕彰すべく設立されました。多くの方の思いと協働による実践がこの栄誉ある賞を頂いたことを励みに、今後も取り組みを進めていきたいと思います。



滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

①地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)

だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。

【リーディングプロジェクト】(1)遊べる・学べる淡海子ども食堂 (2)“滋賀の縁”認証事業

②課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)

一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくります。

③制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。

④国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案

モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。

お問い合わせ先はこちら

滋賀の縁 創造実践センター事務局

〒525-0072
滋賀県草津市笠山7丁目8-138
社会福祉法人
滋賀県社会福祉協議会内

TEL 077-569-4650
FAX 077-567-5160
【メールアドレス】
enishi@shigashakyo.jp
【ホームページ】
<http://www.shiga-enishi.jp>
【Facebook】
<https://www.facebook.com/shiganoenishi>

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成28年7月20日現在)

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
公益社団法人 滋賀県手つなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会长会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議
レイカディアえにしの会・滋賀県救護施設協議会

■参加法人会員名簿

※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

<大津>(福)青桐会、(福)穴太福社会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)共生シフォニー、(福)桐生会、(福)江育会、(福)幸寿会、(福)好和会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)真盛園、(福)夕陽会、(福)石光山会、(福)禅心福社会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)春風会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)樂樹<湖南>NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福)あけぼの会、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、(福)志津保育園、(福)すゞのこ保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)守山向日葵会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)友愛、(福)よつば会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会、特定非営利活動法人草津市心身障害児者連絡協議会<甲賀>(福)あいの土山福祉会、(福)あかつき会、(福)近江ちいしば会、(福)近江と順会、(福)大木会、(福)おなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、特定非営利活動法人NPOワワイワイあばしワラブ<東近江>(福)阿育会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー、(福)恵泉会、(福)湖東会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八宮会、(福)八幸会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会<湖東>(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)愛悠ももの会、(福)あすなろ福社会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)善行会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)福朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)ノゾミ会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)ふたば会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会<湖北>(福)カトリック京都司教区 カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)ははのくに、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん<高島>(福)大阪自彌館、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)はこぶね会、(福)ゆたか会<県域>(福)滋賀県社会福祉協議会

【個人会員】 上野谷 加代子、山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 恵良、疋田 由香里、松田 弘、牛丸 昇子、上村 文子、尾畠 聰英、山元 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世

【賛助会員】 元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、一般社団法人きれいや総研滋賀中央センター、株式会社彩生会